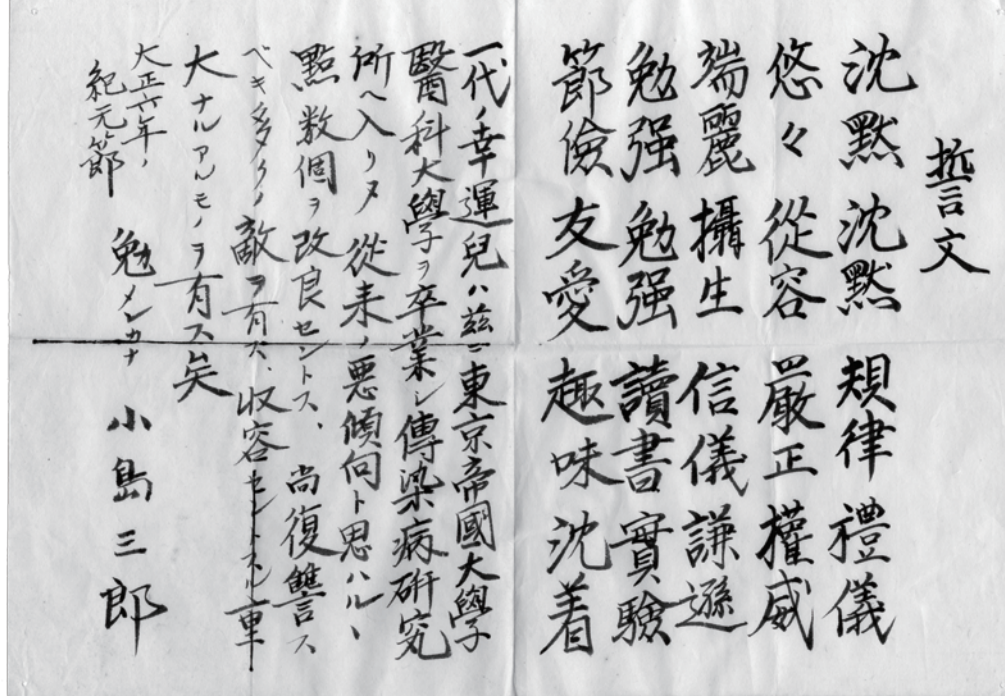




学生時代

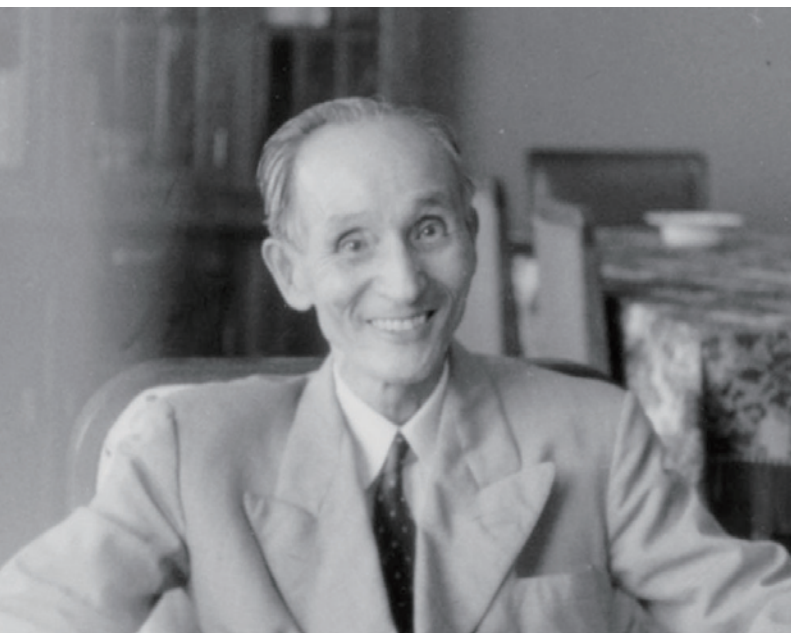


誓文（大正6年伝染病研究所入所に際して）

令和2年度 企画展

各務原出身の伝染病研究者

小島三郎

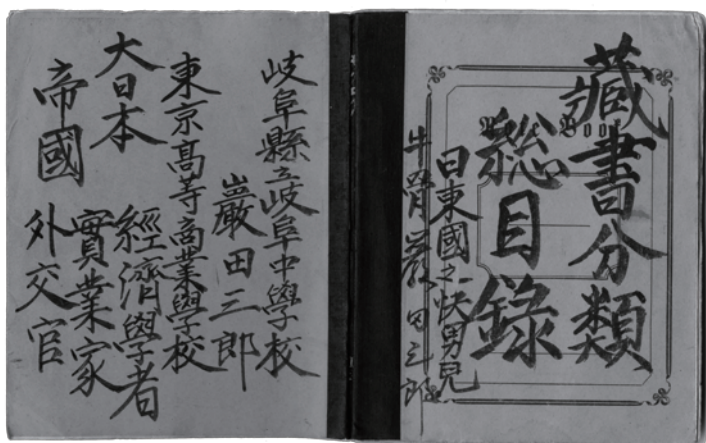


保健文化賞受賞時

小島三郎（1888～1962）は、河田島村（現在の各務原市川島河田町）の巖田家に生まれました。はじめ実業家を目指していましたが、21歳のとき小島家の養子となり、家業を継ぐため医学の道へ進みました。

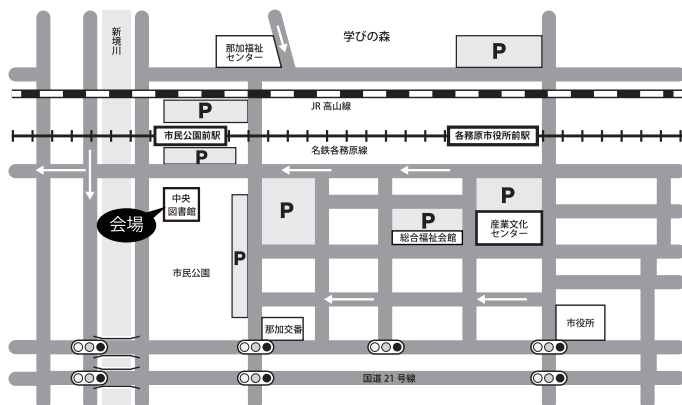
東京帝国大学医科大学を卒業後、一度は郷里に戻り医院を継ぎましたが、1年ほどで医院を人に譲り、伝染病研究所に勤務しました。赤痢菌の分類、消毒薬の検査、インフルエンザの対策などの研究で成果を出し、国立予防衛生研究所（現在の国立感染症研究所）所長などを務めました。

今回の企画展では、現代の感染症対策に繋がるさまざまな研究をおこなった医学者・小島三郎の生涯を、書き残した日記、手紙、論文などから紐解きます。



「日東国之快男児 牛骨巖田三郎」と記された、東京高等商業学校時代のノート

●会場へのアクセス



公共施設利用者駐車場 Pは3時間まで無料 3時間以降は100円/時